

# 国と地方の防災を担うスペシャリストの養成 「内閣府(防災)OJT研修」



内閣府(防災)では、**都道府県・市区町村**等より職員を派遣していただき、「**内閣府(防災)における業務の執行(災害対応等)**」と、「**内閣府の防災スペシャリスト養成研修や各種訓練等への参加**」等を組み合わせた「**内閣府(防災)OJT研修**」を実施。

## OJT研修の概要

### (1) OJT研修の対象者

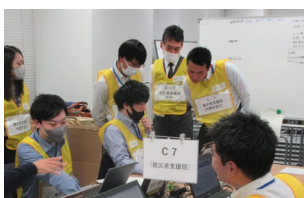
- 都道府県の職員
- 市区町村の職員
- 指定公共機関の職員
- 指定地方公共機関の職員

運用開始(平成25年度)から令和6年6月まで、**延べ436名、うち28都道府県と90市区町村から327名**がOJT研修に参加。防災部局だけでなく、福祉部局や消防部局からも参加。[令和6年6月1日現在]

地方	都道府県	市区町村
北海道	北海道	
東北	福島県	秋田市、仙台市、石巻市、気仙沼市、福島市、白河市、田村市
関東	茨城県、群馬県、千葉県、神奈川県、東京都	常総市、北茨城市、常陸大宮市、つくば市、那珂市、桜川市、境町、前橋市、高崎市、安中市、さいたま市、川口市、本庄市、狭山市、戸田市、入間市、志木市、和光市、新座市、坂戸市、上里町、行田市、白岡市、加須市、千葉市、流山市、大田区、江戸川区、八王子市、国分寺市、福生市、狛江市、横浜市、横須賀市、川崎市、相模原市、平塚市、鎌倉市、小田原市、秦野市、大和市、伊勢原市、座間市、大磯町、二宮町、中井町、箱根町
中部	福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、富山県	茅野市、三条市、上越市、魚沼市、静岡市、三島市、島田市、富士市、名古屋市長久寺市、豊橋市、岡崎市、常滑市、春日井市、幸田町
近畿	兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、京都府、滋賀県	桑名市、神戸市、姫路市、吹田市、大東市
中国	広島県	岡山市、倉敷市、広島市、福山市、長門市、防府市、松江市
四国	高知県	
九州	福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	田川市、唐津市、熊本市、宇土市、日田市、佐伯市、鹿屋市、鹿児島市、那覇市、名護市

### (2) OJT研修の内容

- 内閣府(防災)における業務の執行
- 内閣府(防災)が実施する「防災スペシャリスト養成研修(有明の丘研修)」、各種訓練に参加
- 内閣府(防災)及び防災関係省庁(警察庁、消防庁、総務省等)担当官による講義を受講
- 気象庁、防災科学技術研究所、首都圏外郭放水路等の防災関係施設を見学
- 被災地の現地対策本部、リエゾン要員等に従事



(令和5年度施設見学の様子)

(初動対応訓練の様子)

### (3) 内閣府(防災)における業務

内閣府(防災)の10参事官室のいずれかに所属し、業務を執行する。各参事官室の主な業務は以下のとおり。

- ◆能登半島地震時にOJT研修生が経験した主な業務

#### (1) 総括担当

内閣府(防災)の所掌事務に関する総合調整、災害対策基本法、法制、広報等

- ◆国会・議員対応の総括、広報等の業務に従事

#### (2) 災害緊急事態対応担当

災害応急対策の推進、災害発生時の初動対応、首都直下・南海トラフ地震等の応急対策の立案等

- ◆政府対策本部、政務視察、ロジ支援等の業務に従事

#### (3) 地方・訓練担当

防災訓練の推進、地方公共団体等と連携した防災訓練の実施、自然災害に迅速・的確に対処できる人材の育成等

- ◆現地対策本部、被災市町リエゾンの業務等に従事

#### (4) 調査・企画担当

地震・津波・火山・風水害等大規模災害の防災に関する各種施策の推進等

- ◆能登半島地震における防災対応の検証及び今後の防災対策の方向性検討、孤立集落対策等の重要課題への対応

#### (5) 防災計画担当

防災基本計画・地域防災計画等に係る企画・立案、地方公共団体等の業務継続計画に係る企画・立案等

- ◆被災市町リエゾンの業務等に従事

#### (6) 普及啓発・連携担当

被害を軽減する普及啓発活動等の推進、防災ボランティア活動の環境整備、災害の教訓の記録・伝承、国際防災協力の推進等

- ◆現地対策本部、被災市町リエゾンの業務等に従事

#### (7) 防災デジタル・物資支援担当

防災に関する情報通信技術の活用に関する調整、防災情報システムの整備及び運用・管理、防災に係る物資の備蓄及び災害時における物資の調達・輸送等

- ◆現地対策本部、被災市町リエゾン、ISUT(災害時情報集約支援チーム)、プッシュ型物資支援の業務等に従事

#### (8) 避難生活担当

被災者の避難生活に関する施策の推進、被災者の応急救助及び避難住民の救援、避難所における環境の改善、災害救助法、被災者台帳等

- ◆現地対策本部等で避難所の環境改善業務等に従事

#### (9) 被災者生活再建担当

被災者の生活再建に関する施策の推進、災害救助法に基づく被災者の応急救助、住家の被害認定等

- ◆自然災害時における被災者の生活再建を支援

#### (10) 復旧・復興担当

災害復旧・復興に関する施策等の推進、激甚災害制度、防災にかかる拠点施設整備等

- ◆激甚災害指定、復旧・復興支援本部の運営業務等

### (4) OJT研修の期間

- ・1年間
- ・四半期(時期・期間については応相談)

研修修了時は、**研修レポートを作成**のうえ、**内閣府(防災)幹部に対して報告・提言、併せて修了証書を交付**

## OJTで得られる経験

### □ 国の防災施策の作成や災害対応を経験

- ・南海トラフ地震などの応急対策に関わる計画の策定改定業務に担当しました。計画策定業務では、計画の実効性の確保のため、訓練や災害対応の振り返り等により絶えず改善していく重要性を実感できました。

(愛知県)

- ・主に南海トラフ巨大地震に係る有識者検討会の実施業務を担当しました。有識者や各自治体の首長等が参加する会議の運営に関わったことは、非常に貴重な経験だったと思います。



南海トラフ地震有識者検討会の様子

- また、令和6年能登半島地震の発災後、政府の災害対応の様子を間近に感じることもできました。

(和歌山県)

- ・主に災害弔慰金法や災害救助法の業務を担当しました。災害発生時には、災害救助法の適用、被災自治体への災害応援派遣など、出向元では経験できない貴重な経験ができました。(福島県)

- ・能登半島地震の対応で、大規模災害復興法や特定非常災害特別法といった、大規模な災害を想定した法律がどのような仕組みで動いているのかを国の目線で知ることができました。(大分県 日田市)

### □ 国会対応を経験

- ・主に国会まわりの業務を担当し、国と国会日程の関係性、国会議員の災害時における関心事項など国職員の業務において気にされている部分を間近に感じる事ができました。(京都府)

### □ 人的ネットワークの形成・拡大

- ・自治体職員にとって、人脈が広がることにメリットを感じました。内閣府には、他自治体、他省庁、民間企業など、多様な人材が集まっているため、多様な意見が聞けるとともに、帰任後も相談できる人間関係を築くことができましたからです。(熊本県 熊本市)



令和5年度第1期「有明の丘研修」対面演習の様子

## 研修成果を業務に活かす

### □ 政府や各省庁向け防災訓練の企画・運営を担当

- ・内閣総理大臣をはじめとした全閣僚に参加いただいた「政府本部運営訓練」を担当しました。その中で、総理による記者会見



政府本部運営訓練の様子

- 訓練に関する調整業務といった非常に貴重な経験をするとともに、関係機関との調整の重要性についても学びました。(兵庫県 姫路市)

- ・日本最大級の防災イベントである「ぼうさいこくたい2023」で、準備から当日までの濃い部分に関われ、さらに関東大震災100年という節目の年ということで注目度も高く、過去最多の来場者を記録するなど大変貴重な経験となりました。その業務の中で、災害について熱い思いのある様々な方々と知り合えたことが私の財産となったと思います。(埼玉県 行田市)

### □ 被災者支援に係るシステム構築を担当

- ・クラウド型被災者支援システムの普及と防災分野のデータプラットフォーム整備に向けた調査検討業務を主に担当しました。同システムの普及では、自治体職員の声を聴き、被災者支援業務のデジタル化に関する課題等を把握することができました。同調査検討業務では、次期総合防災情報システムの利用規約の作成等に携わることができました。

- 派遣元に戻っても、学んだことを生かし、業務にあたっていきたいと思います。(大分県)



令和6年度内閣府(防災)OJT研修生

<問い合わせ先>

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(地方・訓練担当)付  
 担当 菊池: masahiko.kikuchi.y3b@cao.go.jp  
 土田: mariko.tsuchida.m8r@cao.go.jp  
 電話 03-3503-2236(直通)

# 国と地方の防災を担うスペシャリストの養成 「内閣府(防災)OJT研修」



内閣府(防災)では、**指定公共機関・指定地方公共機関**等より職員を派遣していただき、「**内閣府(防災)における業務の執行(災害対応等)**」と、「**内閣府の防災スペシャリスト養成研修や各種訓練等への参加**」等を組み合わせた「**内閣府(防災)OJT研修**」を実施。

## OJT研修の概要

### (1) OJT研修の対象者

- 都道府県の職員
  - 市区町村の職員
  - 指定公共機関の職員
  - 指定地方公共機関の職員
- 運用開始(平成25年度)から令和6年6月まで、**延べ436名、うち指定公共機関・指定地方公共機関からも23機関延べ109名**が参加。防災部局だけでなく、事業部局や営業部局からも参加。

【令和6年6月1日現在】

派遣実績のある指定公共機関・指定地方公共機関

- 日本通運株式会社
- 日本郵便株式会社
- 中部電力株式会社
- 三菱東京UFJ銀行
- ソフトバンク株式会社
- 佐川急便株式会社
- 東京電力ホールディングス株式会社
- 成田国際空港株式会社
- 株式会社NTTドコモ
- KDDI株式会社
- イオン株式会社
- 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- 東日本高速道路株式会社
- 一般社団法人日本建設業連合会
- 東京瓦斯株式会社
- 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 西日本旅客鉄道(株)
- 株式会社ローソン
- 独立行政法人都市再生機構
- 株式会社ファミリーマート
- 大阪ガスネットワーク株式会社
- 東京地下鉄株式会社

### (2) OJT研修の内容

- 内閣府(防災)における業務の執行
- 内閣府(防災)が実施する「**防災スペシャリスト養成研修(有明の丘研修)**」、各種訓練に参加
- 内閣府(防災)及び防災関係省庁(警察庁、消防庁、総務省等)担当官による講義を受講
- 気象庁、防災科学技術研究所、首都圏外郭放水路等の防災関係施設を見学
- 被災地の現地対策本部、リエゾン要員等に従事



(令和5年度施設見学の様子)



(初動対応訓練の様子)

### (3) 内閣府(防災)における業務

内閣府(防災)の10参事官室のいずれかに所属し、業務を執行する。各参事官室の主な業務は以下のとおり。

◆は能登半島地震時にOJT研修生が経験した主な業務

#### (1) 総括担当

内閣府(防災)の所掌事務に関する総合調整、災害対策基本法、法制、広報等

◆国会・議員対応の総括、広報等の業務に従事

#### (2) 災害緊急事態対応担当

災害応急対策の推進、災害発生時の初動対応、首都直下・南海トラフ地震等の応急対策の立案等

◆政府対策本部、政務視察、ロジ支援等の業務に従事

#### (3) 地方・訓練担当

防災訓練の推進、地方公共団体等と連携した防災訓練の実施、自然災害に迅速・的確に対処できる人材の育成等

◆現地対策本部、被災市町リエゾンの業務等に従事

#### (4) 調査・企画担当

地震・津波・火山・風水害等大規模災害の防災に関する各種施策の推進等

◆能登半島地震における防災対応の検証及び今後の防災対策の方向性検討、孤立集落対策等の重要課題への対応

#### (5) 防災計画担当

防災基本計画・地域防災計画等に係る企画・立案、地方公共団体等の業務継続計画に係る企画・立案等

◆被災市町リエゾンの業務等に従事

#### (6) 普及啓発・連携担当

被害を軽減する普及啓発活動等の推進、防災ボランティア活動の環境整備、災害の教訓の記録・伝承、国際防災協力の推進等

◆現地対策本部、被災市町リエゾンの業務等に従事

#### (7) 防災デジタル・物資支援担当

防災に関する情報通信技術の活用に関する調整、防災情報システムの整備及び運用・管理、防災に係る物資の備蓄及び災害時における物資の調達・輸送等

◆現地対策本部、被災市町リエゾン、ISUT(災害時情報集約チーム)、プッシュ型物資支援の業務等に従事

#### (8) 避難生活担当

被災者の避難生活に関する施策の推進、被災者の応急救助及び避難住民の救援、避難所における環境の改善、災害救助法、被災者台帳等

◆現地対策本部等で避難所の環境改善業務等に従事

#### (9) 被災者生活再建担当

被災者の生活再建に関する施策の推進、災害救助法に基づく被災者の応急救助、住家の被害認定等

◆自然災害時における被災者の生活再建を支援

#### (10) 復旧・復興担当

災害復旧・復興に関する施策等の推進、激甚災害制度、防災にかかる拠点施設整備等

◆激甚災害指定、復旧・復興支援本部の運営業務等

### (4) OJT研修の期間

- 1年間
- 四半期(時期・期間については応相談)

研修修了時は、**研修レポートを作成**のうえ、**内閣府(防災)幹部に対して報告・提言、併せて修了証書を交付**

## OJTで得られる経験

### □ 国の災害対応を経験

大規模地震発生時の応急対策活動に係る計画の策定業務や、大臣等の被災地視察の調整など、国の災害初動対応に関わる業務を経験しました。



(大臣視察対応の様子)

これらを通じて、**発災時の防災関係機関の役割、応急対策活動のタイムライン**など、防災業務に従事するうえで重要な視点を学びました。

避難所での生活環境の改善や災害救助法について、災害時の国と自治体との連携や支援の仕組みを学び、多くの関係者と協力して業務にあたりました。

また、能登半島地震では、石川県庁へ現地災害対策本部の要員として派遣され復旧のために奮闘しました。現場では災害救助法の運用に関する様々な課題がありましたが、自治体職員や他省庁の関係者と協力することで現地での救助業務を支援できたと思います。

(東京電力パワーグリッド(株))

### □ 防災の国際業務を経験

2年間のうち、前半の1年半は、国際防災協力に関する業務を、残り半年は、防災の国民意識向上に向けた国民運動や防災教育等、国内業務を中心に担当業務を行いました。

特に国際防災協力業務に関しては、海外政務出張や大臣表敬訪問等が再開するタイミングで、着任した4月から担当し、大変貴重な経験をする事ができました。

(一社)日本建設業連合会(フジタ)

### □ 政策づくりの過程を経験

内閣府防災では、国の防災対策という課題に取り組み、国民の生命に関する責任感ある業務を行うことができます。

また、被害想定を分析し、より被害を少なくするための対策立案により、防災業務経験のない自分の知見がとても広がりました。

今回の研修では、公私ともに防災意識を高めていく必要性と、具体的な防災対策などの行動を起こす決断力が身に付く良い機会となりました。

(一社)日本建設業連合会(鹿島建設)



令和6年度内閣府(防災)OJT研修生

## 研修成果を業務に活かす

### □ 備えの重要性を学ぶ

地震に対する防災対策の検討を担当しました。在任中に能登半島地震等があり、いつどこで起こるか分からない地震に危機感を覚えながら、有事の際の迅速な体制構築の重要性や、日ごろから知って備えることの大切さを学びました。

今回の経験を活かし、派遣元でより安全なインフラ建設を目指して取り組んでまいります。

(一社)日本建設業連合会(五洋建設(株))

### □ 仕事のスピード感や影響力を実感

国の仕事のスピード感は、非常に貴重な経験でした。防災担当として事象が発生したときにはいつでも対応を行う必要があり、平時からの当番体制や宿舍などの整備などがあつこそ成り立つものであると感じました。



(大臣記者会見にかかる準備)

(NEXCO東日本)

### □ 同業・異業種間の人的交流

主担当である「防災スペシャリスト養成」の各種研修(有明の丘研修、地域研修、OJT研修、eラーニング)の企画・運営では、専門家、各省庁、地方自治体、内閣府防災との調整を通じて、他では得られない経験や人的交流の機会を得ることができました。

また、国会対応や予算要求から、被災地視察対応、研修・訓練の現場まで、国と地方が連携した防災の仕組みが形つくられる過程を幅広く見聞することができました。

派遣元に戻った後も、本研修で得た知見や人間関係を活かし、防災政策の推進に貢献したいと思っています。

(防災科学技術研究所)



令和5年度第1期「有明の丘研修」対面演習の様子

<問い合わせ先>  
内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(地方・訓練担当)付  
担当 菊池: masahiko.kikuchi.y3b@cao.go.jp  
土田: mariko.tsuchida.m8r@cao.go.jp  
電話 03-3503-2236(直通)

氏 名：西山 健太郎

派遣元：静岡県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：総括担当

一年間通して感じた県と国の大きな違いとしてはスピード感と規模感です。一つ一つの案件にかけられる時間が非常に短く即座の判断が必要になっていると感じました。即座の判断をするために職員一人一人が非常に多くの知識を身に着けており感心するばかりでした。また、規模感としては常に全国的な目線で業務を進めることになるので、広い視野をもって業務に臨んでいることが見て取れました。県に戻ってからはスピード感も規模感も国とは異なるとは思いますが、この一年間で体験したことを忘れずに業務に臨んでいきたいと思っています。

氏 名：石田 尚之

派遣元：NEXCO 東日本

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：総括担当

広報の業務、防災の業務ともに初めての経験であった。行政機関（特に国）としての仕事のスピード感や、政治的な情勢とも密接に関係した中での業務は、非常に貴重な経験であったと感じる。

防災担当という職柄、昼夜間、土日など関係なく、事象が発生したときには何時でも対応を行う必要があり、平時からの当番体制や宿舍などのソフト・ハード的な整備などもあってこそ成り立つものであると感じた。

また、多様な企業や自治体から研修や出向という形で集まった職員との交流で貴重な経験であった。

氏 名：島村 和斗

派遣元：京都府

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：総括担当

総括担当として、主に国会まわりの業務に従事させていただきました。国と国会日程の関係性、国会議員の災害時における関心事項など国職員の業務において気にされている部分を間近に拝見することができました。

また、全体を総括する立場であることから各担当室の業務について、広く知ることに恵まれたほか、他省庁における対応についても知る事ができたことは非常に大きかったと感じています。

一方で、能登半島地震以降の業務は非常に多忙となり、国職員の厳しさも身をもって学んだ経験となりました。

親元に戻った後は、全般的に学んだ防災の知識や人脈を活用し、より良い防災対応ができるよう頑張りたいと思っています。

氏 名：山名 裕也

派遣元：沖縄県 名護市

派遣期間：令和5年10月～令和5年12月

所 属：総括担当

この短期間に、総括担当、復旧・復興担当の2室の担当を経験させていただきました。

総括では、国会・要望対応業務、復旧・復興では防災施設管理や視察対応業務を担当し、地方では経験不可能な業務に携わる事ができ、非常に有意義な研修になりました。

国の防災体制や取り組みについて身近で学べる事ができ、また内閣府防災は、他省庁や民間の企業、県庁等からの出向者が多く在籍しており、交流を深める事ができたことは貴重な財産となりました。

国職員の職務を遂行する姿勢や、間があれば本を開き常に学ぶ姿勢は、帰任後、壁に直面した際、大きな原動力になると感じています。この貴重な経験を活かし、研鑽を積み、地域防災に尽力してまいります。

氏 名：榊原 直輝

派遣元：東日本旅客鉄道株式会社

派遣期間：令和3年7月～令和5年6月

所 属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当として、大規模地震発生時に防災関係機関が行う応急対策活動に係る計画の策定・改定業務や、発災時には、大臣等の被災地視察の調整業務など、国の災害初動対応に関わる多種多様な業務を経験させていただきました。

これらの業務を通じて、災害対応のスピード感や、発災時における防災関係機関の役割、応急対策活動のタイムライン、計画・マニュアル等の実効性確保の重要性など、防災業務に従事するうえで重要な視点を学ぶことができました。

今後、本研修で培った貴重な経験や人脈を活かして、派遣元での業務に励んでまいります。

氏 名：市川 順也

派遣元：静岡県 静岡市

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

内閣府防災担当における1年間は、非常に濃密な1年間でした。

派遣元の自治体でも防災業務に当たっていましたが、内閣府では、全国で発生する災害が対象で、派遣元では事例の少ない災害にも対応すること関係先が多く、迅速な対応が必要となること、職員の出身母体が様々で、様々な価値観や考え方があることから、仕事の質も進め方も派遣元とは大きく異なり、自分の見識を広げる機会になったと感じています。

「令和6年能登半島地震」をはじめとする各災害への対応を通し、事前の準備の重要性のほか、様々な課題点を認識しました。このような経験を、派遣元における業務はもちろん、自分の日常生活にも生かしてまいりたいと思います。

氏 名：大井 涼

派遣元：愛知県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

南海トラフ地震などの応急対策に関わる計画の策定・改定業務携わらせていただきました。計画策定業務では、計画の実効性の確保のため、訓練や災害対応の振り返り等により絶えず改善していく重要性を実感できました。

また、国の災害対応を経験させていただき、組織の迅速かつ適切な対応には、マニュアル・手順書を適切に作成するだけでなく、誰もがマニュアルに沿って動くことができるよう全職員に理解いただくことが重要だと感じました。

氏 名：告 一志

派遣元：茨城県 桜川市

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：地方・訓練担当

令和4年4月から2年間、地方・訓練担当でお世話になりました。

研修担当として研修の企画立案・教材作成・有識者との調整等を行いました。

業務を通して防災は何たるものを学ぶ事ができ、広い視野で防災行政をみる事が可能になりました。

また、担当業務以外としては台風13号の大臣視察随行・能登半島地震対応等、派遣元で経験できないことを経験させていただきました。

今後はこの2年間の経験を活かし、派遣元の防災力向上へ努めるとともに、ここで得た研修員同士や内閣府とのつながりを絶やさないようにしていきたいと思います。

氏 名：池田 真幸

派遣元：防災科学技術研究所

派遣期間：令和4年9月～令和5年9月

所 属：地方・訓練担当

令和4年9月1日～令和5年9月30日の13か月間、地方・訓練担当の研修員として業務に従事しました。主担当である内閣府主催「防災スペシャリスト養成」の各種研修（有明の丘研修、地域研修、OJT研修、eラーニング）や有識者会議である「企画検討会」の企画・運営では、専門家、各省庁の担当、地方自治体の担当、内閣府防災の各担当との調整を通じて、他では得られない経験や人的交流の機会を得ることができました。

また、国会対応や予算要求から、被災地視察対応や研修・訓練の現場まで、国と地方が連携した防災の仕組みが形作られる過程を幅広く見聞することができました。

派遣元に戻った後も、本研修で得た知見や人間関係を有効活用し、防災政策の推進に貢献したいと思います。

氏 名：吉原 裕太

派遣元：兵庫県 姫路市

派遣期間：令和5年4月～令和5年9月

所 属：地方・訓練担当

4月から半年間OJT研修に参加させていただき、非常に多くの業務に携わらせていただきました。

主担当として内閣府で運用している「物資調達・輸送調整等支援システム」を活用した操作訓練の企画・運営に携わらせていただき、参加対象者が関係省庁、都道府県、市町村と非常に多くの方を対象として実施することから、訓練実施に当たってのスケジュール管理の重要性を学びました。

また、副担当として、「防災の日」である9月1日に実施した「政府本部運営訓練」にも携わらせていただき、内閣総理大臣をはじめとした全閣僚の方々に御参加いただき実施しました。本訓練では、閣議関係手続きなどの訓練の広報に関する調整業務や、総理による記者会見訓練に関する調整業務に携わらせていただき、非常に貴重な経験をさせていただくとともに、関係機関との調整の重要性についても学びました。

派遣元に戻った際にも、激甚・頻発化する災害に対し、研修を通じて学んだことを市の防災対策に寄与できるよう努めてまいりたいと思います。

氏 名：板井 諒介

派遣元：神奈川県 相模原市

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：地方・訓練担当

地方・訓練担当、めちゃくちゃおすすりめです！

この1年、初動対応訓練から大規模災害発生時の本部運営訓練、そして政府・官邸による総合防災訓練まで、多種多様な訓練の企画・運営を担当することができました。

ここでの経験を派遣元での仕事に活かせることはもちろん、特に訓練担当はイベント遂行型の業務であるため、大きな達成感を得ることができました。

9月1日、九都県市合同防災訓練で、総理大臣や防災大臣に相模原市へお越しいただいたこと、その企画・運営に携わったことは一生忘れません！

氏 名：濱浦 裕貴

派遣元：神奈川県 横須賀市

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：地方・訓練担当

地方・訓練担当で訓練業務に携わりました。政府の災害対応に係る訓練が主でしたが、内閣官房をはじめ、他省庁とも調整が必要になるため、他省庁の災害対応についても学ぶことができました。

また、担当業務は自分が主となって進めていく必要があるため、研修生という立場であるものの、責任感を持って業務に取り組めたのは良かったと思います。

業務を進めていく中で、大臣へのレクの実施、総理官邸内での業務など市に勤務しては体験できないことに携われたのも貴重な経験となりました。

氏 名：坪井 優太

派遣元：宮城県 気仙沼市

派遣期間：令和5年7月～令和5年9月

所 属：地方・訓練担当

私は令和5年7月から9月末までの3ヶ月間、宮城県気仙沼市から内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（地方・訓練担当）付に派遣となり、国の訓練の準備や運営に関する業務に従事しました。

総理大臣も参加された九都県市合同防災訓練と連携した現地調査訓練のような、大規模な訓練に対し、準備から運営まで関わることができました。その中で内閣府内の調整だけではなく、他省庁との調整も行い、非常に貴重な経験を積むことができました。

着任した当初は業務のスピードについていけるか不安でしたが、周りの方のサポートもあり、地方・訓練担当の一員として、3か月間の業務を全うすることができました。派遣元に戻ってから本研修で得た知識や経験を活かし、日々の業務や派遣元の課題解決に取り組みたいと思います。

氏 名：上田 凌平

派遣元：兵庫県 姫路市

派遣期間：令和5年9月～令和6年3月

所 属：地方・訓練担当

貴重な経験をさせていただきました。防災分野の国としての体制や政策、災害対応などを間近にみて、多くのことを学びました。地方・訓練担当として、内閣府防災内や関係省庁との調整をしながら、上司に説明し、業務を進めました。その中で、多くの方と、携わり助けていただき、無事研修期間を終了いたしました。

この経験は、派遣元に生かし、市の防災体制の充実のため、活動したいと思います。

氏 名：今井 勝彦

派遣元：神奈川県 二宮町

派遣期間：令和5年10月～令和5年12月

所 属：地方・訓練担当

3か月間、地方訓練担当として研修ライン、訓練ラインでのOJT研修をさせていただきました。

研修ラインでは、防災SP養成研修（有明の丘研修）、トップセミナー、関係省庁講義、防災施設見学、地域防災マネージャーの申請受付を経験し、訓練ラインでは、緊急災害現地対策本部運用訓練（北海道、近畿）に関する業務の経験をさせていただきました。

これらの業務で、各機関やその防災担当者の防災意識の向上に関する場面に立ち合うことができ、様々な視点から防災について触れることができました。

私の所属元での業務では、職員、住民と接する機会が多いので、この研修を通じて経験した事を活かし、職員、住民の防災意識の向上や町の災害対策に繋げていきたいと感じました。

氏 名：石飛 桂太郎

派遣元：島根県 松江市

派遣期間：令和5年10月～令和5年12月

所 属：地方・訓練担当

地方・訓練担当の訓練ラインに配属となり主な業務としては、首都直下地震を想定した緊急災害対策本部事務局・緊急災害現地対策本部運営訓練の企画・運営に携わりました。

訓練実施に向けた準備、調整等の業務を遂行する中で、国の災害対応に関するマニュアルや各省庁の対応を学び、これまでの自分になかった視点に気づくことができました。また、自分自身の知識不足もあり業務遂行に悩む場面もありましたが、協力的な方が多く、何でも相談しながら業務を進めることができました。

3ヵ月という研修期間は一瞬で過ぎて行きましたが、今回経験したことや皆様にご指導いただいたことを派遣元自治体で生かして行きたいと考えております。

氏 名：牧田 茉夕

派遣元：神奈川県 平塚市

派遣期間：令和6年1月～令和6年3月

所 属：地方・訓練担当

各種訓練の担当を予定しておりましたが、能登半島地震により訓練は全て中止になり、かわりに地震による現地派遣職員の後方支援、総理・大臣視察のロジ担当および現地調査、そして七尾市リエゾン派遣をさせていただきました。

訓練ではなく本番の対応となり、実災害の国の動きを知れたこと、その中で従事できたことは大変貴重な経験となりました。

この間、他省庁や自治体、民間からの出向者の方と顔が見える関係を築く機会を得られたこともこの研修ならではの収穫でした。

また、現地ヘリエゾンとして派遣された際、日頃の備え・準備体制をしっかりと整備する大切さも改めて実感しましたので、親元に戻った際はこれらの経験を踏まえて防災・減災対応に努めてまいります。

氏 名：松江 涼太

派遣元：茨城県 北茨城市

派遣期間：令和6年1月～令和6年3月

所 属：地方・訓練担当

令和6年1月から3月までの3か月間、地方・訓練担当でお世話になりました。

「防災スペシャリスト養成」有明の丘研修では、全国の自治体職員が集まる中で一部研修の企画・運営を担当させていただきました。研修に参加された自治体職員の方々の防災に携わる職員としての学び意識の高さを目の当たりにして、防災部局の経験が無い自分にとって強い刺激を受けました。

また、能登半島地震では石川県輪島市ヘリエゾンとして現地へ赴き、被災地の生の声を聴くことができたことは大変貴重な経験であったと思います。

慣れ始めたころに研修期間が終了してしまったような短い期間ではありましたが、間違いなく実りのある3か月でしたので、この研修で経験したこと、学んだことを今後の業務に活かしていきたいと思っております。

氏 名：角 直樹

派遣元：(一社)日本建設業連合会(五洋建設(株))

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：調査・企画担当

私は、主に地震に対する防災対策の検討に携わりました。

在任中、能登半島地震やトルコ・シリア地震等があり、いつどこで起こるか分からない地震による被害の甚大さに危機感を覚えながら、有事の際の迅速な体制構築の重要性や、日頃から知って備えることの大切さ、課題対応の交通整理や検討対処方法を学びました。

また、日本の方針を決める重要な国会が、多くの方々の努力の積み重ねによって成り立っていることを知り、リアルな国会運営を目の当たりにできる場でした。

今回の研修での経験を生かし、派遣元でより安全なインフラ建設を目指して取り組んでまいります。貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。

氏 名：石田 祥典

派遣元：北海道

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：調査・企画担当

2年間、OJT 研修生として受け入れていただきありがとうございました。

私が着任した令和4年度は、「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」の被害想定・防災対策が前年度末に取りまとまったタイミングで、法改正や地域指定、後発地震注意情報に関する業務など、北海道にも関係したスケールの大きい業務に参加させていただきました。

令和6年能登半島地震では現地への派遣はかないませんでしたが、内閣府内における業務に携わらせていただき、国の内部でどのように動いているのか、間近で拝見することができました。

振り返ると、ご迷惑をお掛けしてばかりでふがいなく思う部分も大きいですが、ここでの体験やつながり、反省を糧にして、よりよい仕事ができるよう、研鑽を続けたいと思っております。

氏 名：渡辺 有一郎

派遣元：山梨県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：調査・企画担当

1年間の研修を通じて、国での防災の取組や国会・各種会議の流れなど、身をもって知ることができ、貴重な経験となりました。

担当業務とは少し離れますが、被災者の生活再建のサポートを現地で行っている方の話を聞く機会があり、そのなかで、「避難所が閉所したらそれで終わりではなく、被災者はその後も被災した家屋で生活しなければならない場合がある」「従前からの生活課題と災害によって生じた生活課題を区別して整理することが重要」という点が印象に残りました。防災分野に限らず、多様化する行政ニーズを正確に把握するためには、メディア等では伝えきれない実情まで理解する必要があり、そのためには、日頃から住民に寄り添い、住民の目線で物事を考えなければなりません。また、ニーズに対して、本当に解決すべき課題は何なのかということを目に見える情報だけではなく、様々な要素を総合的に勘案して整理しなければなりません。こうした、当たり前のことを当たり前に行うことが何よりも大切だと思うので、研修を通じて、このタイミングで再認識できたことは、自分への戒めという意味で大きな収穫だと感じています。

氏 名：永瀬 弘佳

派遣元：和歌山県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：調査・企画担当

1年間の研修期間で、主に南海トラフ巨大地震にかかる有識者検討会の実施に関わらせていただきました。有識者や各自治体の首長等の方々が参加する会議の運営に関われたことは、非常に貴重な経験であったと思います。また、令和6年能登半島地震の発災後、政府の災害対応の様子を間近に感じることができました。

自治体の業務の中では得られない経験を数多くさせていただきました。派遣元に戻っても、この経験を活かし、業務に取り組みたいと思います。ありがとうございました。

氏 名：堀内 一平

派遣元：(一社)日本建設業連合会(鹿島建設(株))

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：防災計画担当

内閣府防災では、プロパー職員が少ない中、国の防災対策という課題に取り組み、国民の生命に関わる責任感ある業務を行うことができます。

内閣府防災では、被害想定を分析し、より被害を少なくするための対策立案を行っており、防災業務経験のない自分も知見がかなり広がりました。

行政実務研修員という立場で業務制約はあったものの、国としての動き方、考え方を習得することで、国の動向をどう把握し、自分たちの施策に生かしていくか、派遣元の業務に活かせるものがあると実感しました。今回の研修期間では、公私ともに防災意識を高めていく必要性と、具体的な防災対策などの行動を起こす決断力が身に付く良い機会となりました。

氏 名：安藤 良太

派遣元：埼玉県 和光市

派遣期間：令和6年1月～令和6年3月

所 属：防災計画担当

1月1日に能登半島地震が発生したことは、三ヶ月研修に大きな影響を与えました。

まず、オペ室業務に関わったことで、内閣府本部の具体的な動きの一端を学ぶことが出来ました。

そして、2月下旬から約一週間の間、珠洲市リエゾンとして被災地に行ったことは、仕事の範囲をこえて何よりの経験となりました。現地では、珠洲市職員の方々が災害対応に尽力されている姿や、全国から様々な方々が、仕事として、ボランティアとして応援活動をされている姿を拝見し、襟を正す思いでした。

短い期間ではありましたが、今回の研修を今後の仕事に何とか役に立てなくてはもったいないと感じています。最後に、お世話になった皆様に対し、感謝を申し上げます。



氏 名：石神 翔伍

派遣元：(一社) 日本建設業連合会 ((株) フジタ)

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：普及啓発・連携担当

2年間のうち、前半の1年半は、国際防災協力に関する業務を、残り半年は、防災の国民意識向上に向けた国民運動や防災教育等、国内業務を中心に、担当業務を行いました。

新型コロナウイルスに伴う様々な規制が徐々に緩和され、特に国際防災協力業務に関しては、暫く実施できていなかった海外政務出張や大臣表敬訪問等が再開するタイミングで、着任した4月から当該業務に携わることができました。当時はとても苦労したのですが、今思い返すと、大変貴重な経験をさせていただいたと感じているところです。

派遣元に戻ってからは、防災分野に限らず内勤部門で様々な業務を担うこととなりますが、ここで得られた貴重な経験や人脈を、今後も大切にしていきたいと思えます。

氏 名：久積 史明

派遣元：埼玉県 行田市

派遣期間：令和5年7月～令和5年9月

所 属：普及啓発・連携担当

私は令和5年7月から9月までの3ヶ月間、OJT 研修生として内閣府防災普及啓発・連携担当の業務に携わらせていただきました。

主な業務は、日本最大級の防災イベントである「ぼうさいこくたい2023」で、今年は9月開催だったことから、3ヵ月という期間の中で、準備から当日までの濃い部分に関われ、さらに関東大震災100年という節目の年ということで注目度も高く、過去最多の来場者を記録するなど大変貴重な経験となりました。

その業務の中で、開催地をはじめとする自治体の担当者の方や出展団体の方、登壇者の方、TEAM 防災ジャパンの方など、災害について熱い思いのあるさまざまな方々と知り合えたことが私の財産となったと思います。

研修の経験を派遣元の業務でも生かしたいと思えます。

氏 名：藤川 未咲

派遣元：大分県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

派遣元での防災業務経験がない中、内閣府防災で研修となり、防災業務そのものを学ぶところから始まりました。

防災デジタル・物資支援担当では、クラウド型被災者支援システムの普及と防災分野のデータプラットフォーム整備にむけた調査検討業務を主に担当しました。クラウド型被災者支援システムの普及では、自治体職員の方の声を聞き、被災者支援業務のデジタル化に関する課題等を把握することができました。防災分野のデータプラットフォーム整備にむけた調査検討業務では、次期総合防災情報システムの利用規約の作成等に携わることができました。また、能登半島地震の対応では、物資支援に関する業務に携わりました。

防災業務だけでなく、県では学べないことを多々学ぶことができました。派遣元に戻っても学んだことを生かし、業務にあたっていききたいと思えます。

氏 名：中野 宏宣

派遣元：(株) セブンイレブン・ジャパン

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

内閣府防災では、国が行う災害に対する業務を勉強することができました。発災時だけでなく、平時において行われている様々な業務を理解することができ、親元での業務では学べない多くのことを学ぶことができる貴重な期間でした。物資支援では海外支援や国民保護における観点など、今まで考えたことのない業務に対して取り組むことができました。1年という短い期間ではありましたが、人生において非常に有意義な時間を過ごせたと思っています。親元に戻り、学んだことを本社や現場・加盟店に反映できるように励んでまいります！

氏 名：真鍋 孝

派遣元：東京電力パワーグリッド（株）

派遣期間：令和4年2月～令和6年1月

所 属：避難生活担当

内閣府防災担当に2年間在籍したことは、私にとって非常に貴重な経験でした。特に避難所における生活環境の改善や災害救助法について、災害時における国と自治体との連携や支援の仕組みを学び、多くの関係者と協力して業務にあたりました。

また、能登半島地震では、石川県庁へ現地災害対策本部の要員として派遣され、被災者の救援や復旧のために奮闘しました。現場では災害救助法の運用に関するさまざまな課題がありましたが、自治体の職員や他省庁の関係者と協力することで現地での救助業務を支援できたと考えております。

帰任後は、この経験を活かして、防災に関する知識やスキルをさらに深め、電力の安定供給や自然災害に強い社会の実現に貢献できるように努力していきたいと思っております。

氏 名：毛利旭宏

派遣元：熊本県 熊本市

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：避難生活担当

自治体職員にとっては、非常に良い経験が積める制度だと感じました。

まずは、自治体職員として視野が広がることにメリットを感じました。国はどのような観点で施策を決定しているのか、どのような意図で通知等の文書を発出しているのか、災害発生時に国はどのように動くのかなど、自治体勤務ではなかなか把握しづらいことを学ぶことができたからです。

次に、人脈が広がることにメリットを感じました。内閣府には、他自治体、他省庁、民間企業など、多様な人材が集まっているため、多様な意見が聴けるとともに、帰任後も相談できる人間関係を築くことができたからです。

一方、内閣府側には「内閣府として求めることを研修員に伝えてもよいのでは」と感じました。内閣府は「研修成果を親元に還元を」という観点から発言されることが多いと感じていましたが、「自治体、民間企業から見た意見がほしい」、「自治体、民間企業から見た内閣府の課題を教えてください」など、内閣府のメリットとなるものをもっと研修員から吸い上げてほしいのかな、と考えました。

以上です。ありがとうございました。

氏 名：栗原 史織

派遣元：埼玉県 加須市

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：避難生活担当

避難生活では、主にクラウド型被災者支援システムの担当業務に携わらせていただきました。このシステムは平時から発災時の被災者支援を一元的に管理するシステムであるため、自治体におけるフェーズごとの流れを広く学ぶことができました。

また、室内総括業務や検討会等の対応をおこなう中で、多種多様な意見や事例を学ぶことができ、様々な施策や平時からの準備の重要性を認識する機会となりました。

帰任後は、内閣府防災で学んだことや、つながりを大切にしながら、防災の大切さを市民の皆様にお伝えできたらと思っております。

このような貴重な経験の場を与えていただき、ありがとうございました。今後、防災に関するアンテナを高く張りながら、この経験を活かし意欲的に活動してまいります。

氏 名：中野 博隆

派遣元：新潟県 三条市

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：被災者生活再建担当

行政サービスについて、地方自治体が主体性を持つことの重要性を再認識しました。

災害対応は、自治事務と法定受託事務の違いはあるものの、主体は地方自治体です。災害対応は、住民の生命と財産を守るためにもっとも重要な行政サービスの一つであり、過去の災害の教訓を継承・総括し、対応する体制や手順などを改善し続けることが重要です。2年間の研修期間で、様々な災害に対応してきましたが、主体性の濃淡は地方自治体ごとで千差万別でした。

帰任後は、防災行政に限らず主体性を持ち、地方自治体の行政サービスの向上に寄与できる人材となれるよう、成長していきたいと考えています。

氏 名：佐藤 直広

派遣元：福島県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：被災者生活再建担当

私は、被災者生活再建担当として、1年間、主に災害弔慰金法や災害救助法の業務に携わりました。

災害発生時には、災害救助法の適用、災害救助法を適用した被災自治体への災害応援派遣など、出向元では経験できない貴重な経験をさせていただきました。

また、内閣府防災には各省庁、自治体、民間企業等から職員が出向・派遣されており、多様なキャリアを持った方々と一緒に仕事をし、繋がりをもてたことは、今後派遣元に戻り業務を行う上で、非常に大きな財産になると思われました。

今後も派遣元で防災業務に携わることになりましたので、内閣府防災における業務・研修を通じて学んだ知識や経験を活かして、防災行政の発展に貢献したいと考えております。

氏 名：中村 敏一郎

派遣元：沖縄県 那覇市

派遣期間：令和6年1月～令和6年3月

所 属：被災者生活再建担当

3か月の研修期間、ほぼ能登半島地震関連対応でした。災害対応、国会対応と休む間もなく、業務を遂行していく中で、緊張感、スピード感、確実な情報収集等を行っている状況を身近で、感じ取ることができたのは、とてもよかったです。

また、日ごろからの各種情報の整理、災害関連の最新データ等の集約、作成など予測した事前準備の大切さは、とても勉強になりました。

更に、大臣への答弁調整、議員会館でのレク等、中々、経験できない業務に随行することができ貴重な経験となりました。

氏 名：廣田 竜馬

派遣元：大分県 日田市

派遣期間：令和4年4月～令和6年3月

所 属：復旧・復興担当

私は二年間の出向でした。一年目は災害関連死事例集の作成が主な業務で、災害関連死がどういった経緯で発生するのか、多くの事例を知ることができたことはもちろん、各都道府県と連携し、事例集を作成していく過程も大きな経験となりました。

二年目は能登半島地震の対応で、大規模災害復興法や特定非常災害特別措置法といった、大規模な災害を想定した法律がどのような仕組みで動いているのかを国の目線で知ることができました。

当初は一年間の出向予定でしたが、親元から延長の打診を受けたときは喜んで承諾いたしました。結果、二年間の出向となり、様々な経験が積めたことを大変ありがたく思っております。業務のみならず、人生経験においても非常に印象深い二年間となりました。

氏 名：野平 大貴

派遣元：千葉県

派遣期間：令和5年4月～令和6年3月

所 属：復旧・復興担当

内閣府防災が国・地方・民間の様々な立場から出向・派遣されて組織されていることからわかるように、防災は色んな形で色んな人が関わる業務であることを実感しました。業務にあたっては各省庁との調整が多かったです。急な依頼や期限が短い依頼であったとしても、皆様に迅速に対応いただき、防災はこの協力体制のもと成り立っていることを実感しました。それだけ防災は人の命や生活に対して責任のある仕事ということだと思えます。

研修期間は1年間でしたが、長いようで短い濃密な日々を送らせていただくことができました。

この1年間で得られた知識や人とのつながりを今後の県防災に活かしていきたいと思えます。